

備忘録ないしは切り抜き帳(その106)

[2019年6月21日(金)]

○今朝の東京新聞1面トップには『<ファクトチェック 安倍政治の6年半> ①憲法 要件緩和, 教育充実… 変わる改憲項目』と題する記事が掲載されていたので, 以下に転載させて頂きたい。「7月21日投開票が有力視される参院選まで1ヵ月。安倍晋三首相の政治姿勢も, 有権者にとって重要な判断材料だ。第二次安倍政権以降6年半にわたる首相の発言をファクトチェック(事実確認)する。(署名記事) 「自衛隊に対する, 自治体の非協力な対応がある。例えば自衛官の募集。6割以上の自治体から所要の協力が得られていない」今年1月の衆院本会議。首相は, 自衛隊は災害派遣で自治体を助けているのに冷たい扱いを受けているとして, 「終止符を打つためにも, 自衛隊の存在を憲法に位置づけることが必要」と訴えた。だが, 首相の言葉は正確とは言い難い。防衛省によると, 2017年度, 全国1741市区町村のうち, 自衛官適齢者の名簿を作って自衛隊に提出した自治体は36%。一方で, 適齢者名簿や住民基本台帳の閲覧・書き写しを自衛隊に認めた自治体も計54%あった。完全拒否したのは1%に満たない。ほかにも首相は, 自衛隊を明記する必要性を訴えようと, あらゆる理由を総動員してきたが, 額面通り受け取れないことが多い。有名なのは, 自衛官の子どもが「お父さん, 憲法違反なの」と涙ながらに尋ねたというエピソード。首相は2017年10月の民放番組で「(自衛官から)直接聞いた」と説明したが, 野党は国会で「実話なのか」と追及。首相は2019年2月の衆院予算委員会で「防衛省担当の首相秘書官を通じて伺った」と言い直した。首相は「(実話と証明する)資料を出せというのなら出させてください」とたんかも切ったが, 結局, 資料は出てこなかった。そもそも首相は, 2020年の新憲法施行を目指すとして期限を切る一方, 憲法のどこを見直すかという肝心な点で主張を変えてきた。2012年末に第二次安倍政権が発足した当初は, 衆参両院で2分の2以上の賛成が必要とする改憲要件を緩和する96条改憲を目標に。ルールを変えるやり方に「裏口入学」と批判が高まり, 棚上げした。自民党も, 現行憲法は世界的に見ても改正しにくいと訴えたが, 海外の憲法に詳しい憲法学者は, 議会の承認が必要な各国憲法のおよそ4分の3は「3分の2」が改憲要件と指摘する。首相はその後, 自衛隊明記のほか, 教育充実のための改憲も強く主張。改憲で日本維新の会の協力を得るためとみられている。2年前の施政方針演説で首相は, 江戸時代に土佐藩が, 江戸から持ち帰ったハマグリを食べずに放流した結果「今も大きな恵みをもたらしている」として, 子孫のための憲法論議を訴えた。演説当時, 高知県のハマグリ漁獲量はピーク時の4%弱にすぎず「大きな恵み」は誇張と言える。在任中に自らの手で改憲を成し遂げる意欲が先走り, 内容は二の次。首相の改憲論からは哲学が見えてこない。」

憲法に関する安倍首相の発言の真偽

国会各弁や記者会見などから

発言内容	本紙の判定
いよいよ国民みんなで(改憲に向けた)橋を渡る。96条の改正を行っていく(2012年12月)	「裏口入学」などの批判を受け, 改憲要件を緩和する96条改憲は断念
われわれ(自民党)は既に憲法改正草案を示している。こういう憲法を作りたいと思うから出している(16年3月)	党改憲草案は16年10月, 国会論議で封印
(江戸時代に土佐藩が, ハマグリを食べずに海に放流したことで)350年を経た今も高知の人々に大きな恵みをもたらしている。子や孫のため, 憲法審査会で議論を深めよう(17年1月)	高知県のハマグリ漁獲量はピーク時の4%未満
憲法学者の7割, 8割が(自衛隊を)違憲と言い, その記述は教科書にもある。そういう状況を変えていくことは私たちの責任だ(17年5月)	違憲と断定している教科書はない。合憲とする政府見解とともに違憲論を紹介している
(自衛官募集について)6割以上の自治体から協力が得られていない。この状況に終止符を打つため, 自衛隊を憲法上に位置づけることが必要(19年1月)	適齢者名簿を自衛隊に提出した自治体は36%だが, ほかに54%の自治体が閲覧を許可。完全な非協力は1%未満
(子どもが自衛官の父親に「憲法違反なの?」と涙を浮かべて尋ねたという話は)実話だ。資料を出せというのなら出させてください。私からそれを言うわけはない(19年2月)	当初は直接聞いた話と説明。後日, 秘書官からのまた聞きだったと修正した。資料も出さずじまい

○同じく東京新聞社会面に掲載されていた『<ぬちかじり 沖縄を伝える>(上) 権力と対峙 貫いた反骨記者 政府も米軍も信用せず』を以下に転載させて頂く。「沖縄県名護市辺野古に米軍の新基地を建設する政府に対し, 厳しい姿勢で臨む地元メディアには, インターネット上などで「偏向報道だ」との声が上がる。沖縄の実情を伝えてきた記者らの苦闘と努力はどれだけ知られているのだろう。「ぬちかじり(命の限り), 闘う」。がんで余命一年を宣告されながら沖縄を追い続けるジャーナリスト森口豁(81)と現地を訪れ, 考えた。23日は沖縄慰霊の日。(署名記事) 「当時は焼け野原だったから, 海はもっとよく見えたはず」沖縄が梅雨入りした5月中旬, 本島南部の豊見城市伊良波。沖縄戦の時に避難壕があった丘の中腹で森口はつぶやいた。「あの人が生を確かめた瞬間の光景を, 自分の目で見たかった」と森口。戦後の報道は, ここが原点だと思ったからだ。あの人は, 74年前, 当時38歳の日本兵だった池宮城秀意(いけみやぐしくしゅうい)。池宮城は戦後, 琉球新報の編集局長などを務め, 現地の報道をリードしてきたジャーナリストだ。沖縄日報の記者だった戦前は, 戦意高揚の紙面に反発して1940年に辞職。1945年



琉球新報新聞博物館に展示された池宮城秀意の資料。愛用の万年筆などが並ぶ=那覇市で

2月に徴兵され、沖縄戦の地獄を見た。砲弾の雨をくぐり抜け、たどり着いた壕の中で、手足をもがれた傷病兵がうめき声を上げる様子を、池宮城は日記に書き残している。6月20日、伊良波の壕を出て米軍に投降した。池宮城は1946年、米軍の支援を受けて創刊したウルマ新報(琉球新報の前身)で編集長に就く。記者経験などを買われたためだが、戦後の米軍統治下でも戦中と同じく、報道の自由を守るのは容易でなかった。「編集や人事に口を出さない」という約束は守られず、ソテツを食べた住民が死亡したとの記事に「米国が食べ物を与えていないことになる」と抗議を受けるなど、介入との闘いが続いた。そんな緊張感が漂う1958年、21歳だった森口は記者として採用され、東京から沖縄に移住した。「地元紙がしっかりしないと、権力の意のままになり操られる。それは怖いことだ」。森口は池宮城から折に触れそう言われた。池宮城は、沖縄に悲惨な結果をもたらした日本政府も、米軍も信用していなかった。琉球新報の社長となった池宮城は1965年米国が任命していた琉球政府行政主席を公選制にするべきだ、とのアピールを沖縄タイムスの社長らと出す。地元の姿勢を毅然と示し、公選制は3年後に実現した。戦前から43年間、反骨のジャーナリストとして地元の報道に携わった池宮城は、1989年に82歳で亡くなった。権力に厳しく対峙する琉球新報の姿勢は、いまも変わらない。森口は今年1995年に出版した池宮城の評伝を再版した。「沖縄で言論を守るのは簡単ではなかった。その歴史を知ってほしい」(敬称略) <もりぐち・かつ> 1937年東京生まれ。1956年に初めて沖縄を訪問し、1958年に都内の大学を中退し琉球新報社に入社。東京支社勤務を経て1959年1月から沖縄で記者として働く。1961年から日本テレビ沖縄通信員を兼務、1963年に琉球新報社を退社し日テレの沖縄特派員に。1974年に東京本社勤務になってからも沖縄取材を続け、1990年からフリー。ドキュメンタリー「ひめゆり戦史・いま問う国家と教育」(1979年)などで1984年にテレビ大賞優秀個人賞



沖縄戦で使われた壕の跡を学芸員の案内で取材する森口幹(左)=5月、沖縄県豊見城市で

[2019年6月22日(土)]

○東京新聞の連載記事『<ファクトチェック 安倍政治の6年半> ②経済 GDP・勤労統計・求人倍率…「成果」実情触れず』を以下に転載させて頂く。「安倍政権が6年半、経済政策で最も重視してきたのは、「成果」の見せ方だ。さまざまな解釈や表現を駆使し、いかに経済成長を実現したかを国民に印象付けることに腐心してきた。「しっかりと経済を成長させている」。安倍晋三首相は19日の党首討論で、立憲民主党の枝野幸男代表に向けこう強調した。民主党政権時代の国内総生産(GDP)の実質成長率が安倍政権を上回っていた、と訴えた枝野氏に対し「一点だけ申し上げる」と強く反論した。枝野氏は物価変動の影響を除いた実質成長率を「経済の総合成績」と主張した一方、安倍首相は変動分を含んだ名目成長率を前提にした。どの指標を扱うか。解釈一つで、アベノミクスの代表的な「成果」とされるGDPでさえも評価が大きく変わる。両者の主張がかみ合わなかったのは「物差し」の違いが大きい。政権が「名目GDP600兆円」を目標に掲げたのは2015年。首相は同年11月、「2020年ごろに十分達成できる」と宣言した。2015年度の実額は当初、500兆円程度にとどまり、専門家から「不可能」との意見が相次いだ。しかし、その後に数値は急伸。2018年度には550兆円まで伸ばした。伸長のからくりはGDPの計算方法の変更だった。目標を掲げた後の2016年12月に計算法を変え、2015年度は基準変更前と比べGDPを30兆円以上伸ばした。「後出しじゃんけん」との批判も招いたが、一連の事象を首相が率先して説明する姿はみられない。首相がアベノミクスの成果を誇る際、紹介した数字の裏側にある実情を丁寧に説明しない場面が多くみられる。賃金の伸びは春闘の実績を使、基幹統計として重要性が高い「毎月勤労統計」の結果には触れず。勤労統計の2018年実績が政府の不正や算出方法の変更により、かさ上げされていることも背景にある。頻繁に取り上げる雇用の改善でも説明不足の構図は同じだ。今国会でも、「有効求人倍率は史上初めて、全都道府県で一倍を超えた」と繰り返す首相。この数字は事実だが、団塊世代の一齐退職や生産年齢人口の減少という特殊要因には触れず、増えた雇用は高齢者ら短時間労働者が多いという中身は語らない。看板に掲げた金融政策「異次元緩和」でも、その理由と結果を十分に説明したとは言

経済政策に関する安倍首相の発言の真偽

(国会答弁やテレビ番組、講演から)

発言内容	本誌の判定
日銀において、大体2年をめぐりに2%の物価安定目標に向かって政策を進めていく(2013年4月)	3倍の6年かかっても達成できます。19年5月で0.8%上昇にとどまり、地方銀行の経営悪化など副作用も続出
20年ごろにはGDP600兆円は十分達成できる(15年11月)	18年度名目GDPは約550兆円。統計基準の改定で、15年度に30兆円以上上振れ「かさ上げ」批判も
有効求人倍率は史上初めて、47全ての都道府県で1倍を超えた(16年6月)	団塊世代の退職など、生産年齢人口の減少が背景。主な雇用増は高齢者など短時間労働者
民主党政権の3年3カ月、児童扶養手当はたったの1円も上がらなかった(16年9月)	民主党政権は父子家庭にも児童扶養手当を支給する法改正を実施。約150億円の予算措置も
裁量労働制で働く方の労働時間の長さは、一般労働者よりも短いというデータもある(18年1月)	労働政策研究・研修機構の調査で、裁量労働制で働く人の労働時間の方が長いとの結果が出ている
一般企業の今年の春闘は7割以上で3%以上上げが行われた(18年9月)	経団連の「首脳企業」約40社へのアンケートからの引用とみられる。「一般企業」といって対象は大きくない
5年連続で今世紀に入って最高水準の賃上げが連続している(19年1月)	毎月勤労統計の18年の賃金伸び率は、不正や算出方法変更によりかさ上げ

い難い。当時、首相はデフレの原因は金融緩和の不足にあるとして任命した日銀の黒田東彦総裁による「2年で物価上昇率2%」に強くこだわった。それが6年かけても達成できず、地方銀行の経営悪化など副作用が相次ぐと発言は一変。今月の国会では「2%は一応目的だが、本当の目的は雇用」と転じた。(署名記事)

○同紙のもう一つの連載記事『くぬちかじり 沖縄を伝える>(中) ウルトラマン脚本家の苦悩 本土との溝 深いまま』も以下に転載させて頂く。「ジャーナリスト森口豁(81)=千葉県松戸市=が初めて沖縄を訪れたのは63年前、東京の高校生のときだ。米軍統治下の沖縄行きを誘ってきたのは、同じ高校で一年後輩の金城哲夫=写真。後に日本中の子どもたちを熱狂させたウルトラマンの脚本家になる金城は、沖縄からの「留学生」だった。「沖縄の人たちが置かれている状況を見てほしい」という金城の願いに森口ら生徒と教員の計18人が応じた。1956年の春休み、約2週間かけて民家などに泊まり、トラックの荷台に乗って高校を訪ね、生徒らと交流した。訪れた高校では米軍に農地を接収され、米兵の犯罪が続いているとの訴えもあった。「なぜこんなちっぽけな沖縄に基地をつくらなきゃならないのか」と問う生徒に、森口は何も言えなかった。立派な米軍基地と住民の粗末なバラックが混在する沖縄の風景。一方で東京は高度経済成長の入り口にさしかかり、政府の経済白書は同年「もはや戦後ではない」と掲げた。その落差に森口はショックを受ける。金城らと沖縄での体験を紹介する壁新聞を作り、体験記の冊子を全国の高校計250校に送るなど、沖縄を伝える活動を始めた。森口は1958年、東京の大学を中退して琉球新報の記者に。金城は東京で、後にウルトラマンを製作する円谷プロに入社する。森口は沖縄で金城の母親が営む食堂で食事し、金城は世田谷区にある森口の実家によく遊びに行った。金城が会社を辞めて沖縄に戻ると、森口と子どもを連れて南部の新原(みいばる)ビーチで遊んだ。金城はウルトラマンシリーズで、沖縄を意識した脚本を書いている。1971年の「帰ってきたウルトラマン/毒ガス怪獣出現」は、沖縄の米軍施設で毒ガス兵器の貯蔵が明らかになった後に執筆した。沖縄の方言を怪獣の名前に付けることもあった。沖縄の本土復帰後金城は1975年の沖縄国際海洋博覧会の演出を任される。沖縄の良さを世界にアピールできると張り切ったが復帰後も米軍基地を残した政府への反発などから地元の協力は得られず、酒の量が増えた。「哲夫は本土と沖縄のギャップに悩んでいた」と森口は当時を振り返る。金城は1976年、酒に酔って自宅2階から転落し37歳で亡くなった。先月中旬、森口は10年ぶりに新原ビーチに足を運んだ。50キロ離れた名護市では、多くの県民が反対する中で政府が新基地の建設を進め、本土と沖縄の溝は今も深いままだ。「もし哲夫が生きていたら何て言うだろうか」と森口。10代の2人が作った壁新聞は、県内の金城哲夫資料館に残っている。見出しには「沖縄と本土のかけ橋に」とあった。(敬称略)



金城哲夫資料館に展示されている森口と金城らが作った壁新聞=沖縄県南風原町で



[2019年6月23日(日)]

○東京新聞の連載記事『くファクトチェック 安倍政治の6年半> ③森友・加計問題 ゆがむ「政」と「官」付度の疑念 消えないまま』を以下に転載させて頂く。「公平公正であるべき行政がねじ曲げられ、安倍晋三首相に近い人に特別な便宜が図られたのではないか。第二次安倍政権発足後の6年半を振り返り、見過ごせない特徴は「付度」という言葉に象徴される政と官のゆがんだ関係だ。「私や妻が認可あるいは国有地払い下げに、事務所も含めて一切かかわっていないことは明確にさせていただきたい」。2017年2月の衆院予算委員会で首相は、学校法人「森友学園」に国有地が大幅に値引きされて売却された問題について、自身や妻昭恵氏の関与を強く否定した。この問題では、学園が開校予定だった小学校の名誉校長に昭恵氏が就いていたことなどを官僚が付度したという疑念がくすぶる。学園理事長だった籠池泰典被告が2015年11月、国有地賃貸で優遇を受けられないか昭恵氏に相談し、昭恵氏付き政府職員だった谷査恵子氏が財務省理財局に照会していたことが、同省が公開した文書などで判明。首相は「(理財局は)ゼロ回答。付度してないのは明らかだ」と国会答弁したが、昭恵氏の存在が国有地を巡る交渉に影響した可能性は低くない。籠池被告は当初、国有地を8年間借りた後に買い取ることを目指した。財務省近畿財務局との交渉は難航したが、昭恵氏が学園の幼稚園を視察し、籠池被告と一緒に写った写真が示されると、売却を前提とした交渉が進んだ。2016年6月、地中のごみ撤去費として約8億円を値引きして国有地が売却された。籠池被告は、「神風が吹いた」と表現したが、

「安倍一強」と言われる長期政権下で、官僚が権力者に近いと思われる人を優遇した疑いは消えない。公文書改ざんに関わった職員が命まで絶っている。また、首相が「腹心の友」と呼ぶ加計孝太郎氏が理事長を務める加計学園の獣医学部新設を巡っても「加計ありき」で国家戦略特区の選定が進んだ疑いが解消されていない。業者による供応などを禁じた大臣規範があるにもかかわらず、首相と加計氏はゴルフや会食を繰り返してきた。2015年6月に愛媛県と同県今治市が国家戦略特区での獣医学部新設を国に提案した後も続けている。首相が学園の獣医学部新設の意向をいつ知ったのかが焦点となった。首相は2017年7月の衆院予算委で「(加計学園による特区への)申請を知ったのは、1月20日の特区諮問会議」と答弁。しかし、首相は同年6月の参院予算委などで「(国家戦略特区の前の)構造改革特区で申請されたことは承知していた」と答えていた。矛盾だと追及された首相は「整理が不十分で混乱していた」と陳謝し答弁を修正した。その後も、首相と麻生太郎副総理の地元を結ぶ道路整備を巡り、当時の国土交通副大臣が「付度した」と発言して事実上更迭されるなど、政権の体質を疑わせる問題が続く。だが、その場しのぎにも映る首相の説明から危機意識は感じられない。(望月衣塑子)

森友・加計問題に関する安倍首相の発言の真偽 国会審議から

発言内容	本紙の判定
私や妻が(森友学園への)認可あるいは国有地払い下げに、もちろん事務所も含めて、一切かかわっていないことは明確にさせていきたい(2017年2月)	財務省の交渉記録によると、首相の妻昭恵氏付き政府職員だった谷倉恵子氏が「学園側から」優遇を受けられないか総理夫人に照会があり、当方から問い合わせた」と同省に伝えていた
(学園が開校を自派した小学校の校名は私の名前ではなく「開成小学校」で申請されていたのが事実であろう。これ以外のものはない(18年1月)	近畿財務局の交渉記録には、認可申請先の大阪府に対し「安倍晋三記念小学校」と説明していたことを示す記載があった
(加計学園による特区への)申請を知ったのは1月20日の特区諮問会議(17年7月)	07年の今治市からの構造改革特区提案に、加計学園が候補と記載。首相は17年6月、加計学園の計画を知った時期について「構造改革特区で申請されたことは承知していた」と国会答弁していた
(事業者選定などのプロセス)は全て議事録もオープンになっている(17年7月)	国家戦略特区ワーキンググループが15年6月に愛媛県などからヒアリングした際、学園の幹部3人が同席して発言したのに、公表された議事要旨に載っていなかった
(加計孝太郎理事長とは)昨年からは話をしていない(18年5月)	加計氏は18年6月の記者会見で、首相と初めて獣医学部新設の話をしたのは17年1月以降かとの質問に「そういうことだ」と答えている

○もう一つの連載記事『くぬちかじり 沖縄を伝える<(下) 地元の目 何を映す 余命1年 無理解にあらがう』も以下に転載させて頂く。「5月中旬、ジャーナリストの森口豁(81)=千葉県松戸市=と沖縄県浦添市の米海兵隊基地を訪ねると、民家やコンビニが基地のすぐそばまで迫っていた。ふいに森口が「フェンスの上にある鉄条網を外を向いているのはおかしいと思わないか」と問いかけてきた。鉄条網は不審者の侵入を防ぐものだから、外を向いているのが普通だ。首をかしげると、森口は「女性への暴行や交通事故など、基地の中から米兵が出てきて犯罪を起こしている。沖縄の人は、防ぐべきは米兵の方だって思っている」と語気を強めた。森口は出身地の東京から沖縄に移住し、現地の目線にこだわって報道してきた。その立ち位置を意識したのは大学生だった1957(昭和32)年夏、二度目に沖縄を訪問した時の出来事がきっかけだという。報道写真家を目指していた森口は、農村の暮らしを撮影しようと、三和村(現糸満市)を歩いていた。畑を耕している高齢女性に「こんにちは」と声をかけると、女性はクワを放り出し家の中に逃げていった。初めて沖縄を訪れた前年、沖縄戦では日本兵が壕から住民を追い出したり、泣き声を上げる赤ん坊を殺すよう母親に命令したりしたと聞いていた。「怖い目に遭わされた日本兵と私が重なったのではないかと衝撃を受けた。「戦争や基地を持ち込んだ本土は加害者。自分はその一人なんだ」との罪悪感を胸に、沖縄の人の思い、声、息づかいを伝えようと心に決めた。1972年5月、沖縄が本土復帰した時の報道も、地元目線にこだわった。当時は琉球新報を辞め、日本テレビの沖縄特派員。米軍の在沖陸軍司令部に初めて揚がる日の丸をどう取材するか、本土のクルーと打ち合わせた。米軍からは、基地内で日の丸を撮影できるという取材案内がきていた。だが、森口は「それは違うんじゃないか」と主張。「基地に揚がる日の丸は、復帰しても基地がなくなるの象徴。複雑な気持ちで見つめる沖縄の人の目線で撮るべきだ」。フェンスの外から撮った映像を報じた。東京本社勤務になった後も沖縄の取材を続けてきた森口。浦添市の米海兵隊基地を訪ねた先月中旬も、基地内の日の丸は星条旗の隣でゆらゆらと揺れていた。「当時は何を取材する場合でも俺たちはどこに立つべきか、とことん考えた」と森口は静かに話した。がんで余命1年を宣告されたのは今年2月。3月に手術し、抗がん剤治療を続けている。副作用による体のだるさや頭痛などに苦しみながら「沖縄の歴史、人々の気持ちを深く知ってほしい」と講演を続ける。いつまで自由に動けるか分からない。それでも沖縄への無理解にあらがい続ける。ぬちかじり(命の限り)。(敬称略) =この連載は石原真樹が担当しました。」



米軍基地を囲むフェンス上の鉄条網について話す森口豁=沖縄県浦添市で

○もう一つ、今朝の東京新聞社説『週のはじめに考える アイシアッテルカイ?』も転載させて頂く。「ロックスター忌野清志郎。この世を去ってはや10年。でも今も、今だからこそ、あのフレーズが聞こえてきそう。みんな、アイシアッテルカーイー。♪何 言ってんだー/ふざけんじゃねえー/核などいらねえ…。おなかの底から“絞りたて”とでも言うような少ししゃがれたあの声が、真っすぐこちらへ向かってきます。伝説のロックバンド、RCサクセションが歌う「ラヴ・ミー・テンダー」。エルビス・プレスリーの代表曲に、ボーカルの清志郎さんが日本語の「訳詞」をつけました。◆原子力は欲しくない ボブ・ディラン、ローリング・スト

ーンズ、ジョン・レノン…。洋楽のスタンダードナンバーを訳詞(といっても、ほとんど替え歌ですが)で歌う「COVERS(カバーズ)」というアルバムの中の一曲です。例えば、忌野版の「サマータイム・ブルース」(原曲はエディ・コ克蘭)は、チェルノブイリ原発事故に触発されたという、あまりにもストレートな反原発ソングです。♪電力は余ってる/要らねえ/欲しくない/原子力は要らねえ/危ねえ/欲しくない…。こんな感じのリフレインが印象的で、発表当時は「過激」とされたこの歌も、福島事故に向き合う今となっては予言のように聞こえます。「カバーズ」は1988年8月6日の広島原爆の日発売されるはずでした。それが、突然、中止になりました。レコード会社に原発の建設を手掛ける親会社への“忬度”があったといわれています。

「素晴しすぎて発売出来ません」ー。6月22日付の全国紙に載ったレコード会社の「御知らせ」のこの見出し、今でもはっきり覚えています。皮肉なことに、それでかえって「聞きたい」という渴望の声が強くなり、15日の終戦記念日に別のレコード会社から、世に出ることになりました。それから11年ののち、忌野清志郎名義のミニアルバム「冬の十字架」が、またもや発売中止の憂き目に遭いました。パンクロック風にアレンジされた「君が代」が収録されていたというのがその理由。だれがダメだと言ったのか、またしても正体不明の“忬度”でした。◆ウソのない言葉の力 放送も“自粛”される中、忌野版の「君が代」を、清志郎さんいわく「宇宙で初めて」電波にのせたのが、清志郎さんの友人でタレントの矢野きよ実さん。「矢野印」という中部日本放送の夜のラジオ番組でした。矢野さんは今、こう言います。「ボス(清志郎さん)は多くを語りません。でも、ある瞬間のひとつが、私たちの生きる力になるんです。ウソのない、壁のない、全部さらけ出しちゃう人だからー。この時代、この時期に、ボスがいてくれたなら…。そう思わずには、いられません」ウソのない彼の言葉は、どこから生まれてくるのでしょうか。ギタリスト、楽曲の共同制作者などとして最後まで清志郎さんに寄り添った、三宅伸治さんに聞いてみました。「清志郎さんって“文化人”ではないんです。感じたことを庶民目線で普通に歌っただけなんです。“ロックの基本は、ラブ・アンド・ピース(愛と平和)なんだ”とよく言っていましたが、原発を歌うにしろ、憲法を語るにしろ、そこへつなげていく話。愛と平和を大切にしていただけなんです」そういえば清志郎さん、「瀕死の双六問屋・完全版」という著書に、こんなことを書いています。<どーだろう、…この国の憲法第9条はまるでジョン・レノンの考え方みたいじゃないか? 戦争を放棄して世界の平和のためにがんばるって言ってるんだぜ。俺たちはジョン・レノンみたいじゃないか。戦争はやめよう、平和に生きよう…> ◆自分自身のことだから 憲法改正も原発事故も戦争も、ほかならぬ自分自身の問題だから、あの人は、歌わずには、語らずにはいられなかったー。翻って私たちはどうですか。歌いたい歌を歌ってますか。理不尽なものに怒ってますか。忬度ばかりしていませんか。おかしいことをおかしいと言えますか。憲法を読んだことがありますか。投票には行きますか。日本は世界有数の地震国、福島事故が怖くはないですか。「愛と平和」が好きですか…。“何言ってるんだー”“何やってんだー”と、あの人に言われなくても済みそうですか。」

- 今朝の毎日新聞に『「鉄の暴風」といわれる激しい地上戦から74年 沖縄「慰霊の日」迎える』との記事があったので、以下に写真と共に転載させて頂きたい。「沖縄は23日、太平洋戦争末期の沖縄戦の犠牲者らを追悼する「慰霊の日」を迎えた。旧日本軍による組織的戦闘の終結から74年。最後の激戦地だった沖縄県糸満市摩文仁の平和祈念公園にある「平和の礎」を遺族らが訪れるなど、沖縄は1日中、平和と鎮魂の祈りに包まれる。米軍は1945年4月1日に沖縄本島に上陸。「鉄の暴風」といわれる激しい地上戦が展開され、日本軍が本土防衛の時間稼ぎのために持久戦に持ち込んだ結果、多くの住民が巻き込まれた。約3ヵ月に及ぶ戦闘で日米の計約20万人が犠牲となり、県民の4人に1人が亡くなったとされる。23日昼には平和祈念公園で県と県議会主催の「沖縄全戦没者追悼式」が営まれ、玉城デニー知事が就任後初の「平和宣言」を読み上げる。安倍晋三首相も参列し、あいさつする。米軍普天間飛行場の名護市辺野古への県内移設を巡って県と政府が真っ向から対立する中、2月の県民投票で埋め立て反対が7割を超えたことを踏まえ、玉城知事は平和宣言で辺野古移設断念を求めるとみられる。沖縄戦などの戦没者の名を国籍や民間人、軍人の区別なく刻んだ「平和の礎」には今年、新たに韓国籍2人を含む42人の名前が刻銘された。二重刻銘による削除者も1人いて、総刻銘数は24万1566人となった。(署名記事)」



早朝から平和の礎に手を合わせる人たち=沖縄県糸満市の平和祈念公園で2019年6月23日午前7時29分、毎日新聞より